

8月1～3日、WHCOB夏合宿で志賀高原に行ってきました。

07年に再開された夏合宿も、数えて4回目となり、参加者も初回の唐松岳5人から、立山10人、奥日光12人と年々増えて、今回は15人になりました。特筆すべきは、前年の参加者が翌年必ず参加し、さらに何人かが加わっているということです。

平年より早く梅雨が明け、その後連日続く猛烈な暑さの中、涼風の吹きぬける信州の高原に思いをはせながら我慢の10数日を過ごし、8月1日の合宿初日を迎えました。

東京からの新幹線組9人、神戸からの夜行バス組2人、多摩、銚子、日光、新潟からそれぞれマイカーを走らせた4人、計15人全員が勢ぞろいしたのは、志賀高原の一の瀬にある宿、「シルバーエイジ志賀」(ン? 「シルバー志賀」だったかな?)。

再会の挨拶がてら昼食をとった後、ゴンドラリフト利用で焼額(やけびたい)山へ。標高2009mと、西暦と同じ数字だった昨年少しだけ脚光を浴びた焼額山は、ゴンドラの終点が2000m。徒歩わずかの頂上に到着すると、稚児池という大きな池がありました。というより、山頂が丸々周囲200mほどの池になっている、という初めて見る光景でした。池とそれに続く湿原には、地味系の高山植物がたくさん咲いていました。何よりも嬉しかったことは、リーダーから出た「ここで1時間休憩」という一言、早速、2.5台のコンロが活躍してのティータイムとなりました。

一の瀬への道は、色とりどりの花が咲き乱れる楽しく緩やかな尾根道。今年から「花博士」が1人増えて2人になり、図鑑片手の研修生もいて、出てくる花の名前の数たるやたちまち30にも40にもなりましたが、4つも続けて聞くと、初めの1つを思い出せなくなる私には、お花畑の中にいられるだけで十分でした。2時間ほどの下りの最後に、遊歩道が清流の暗渠の中を通るといふ、これまた初めて体験する道を歩いて宿に戻りました。いふなれば「花の下り道」という半日でした。

気持ちのいい風呂で汗を流して部屋に戻ると、早くも栃木の酒「日光譽」と新潟の酒「~~メ~~張鶴」の一升瓶の栓が抜かれ、少々(升々)の酒で、夕食前の予備宴会が始まりました。さらに多国籍のアルコール類に、無国籍(?)のつまみ類がテーブルの上いっぱいにもっこりと並べられました。気持ちよく入った風呂は温泉ではありません。というのは、志賀高原には随所に温泉が湧いていますが、一の瀬での温泉掘削の話があったとき、温泉が清流に流れ込むと、岩魚をはじめとする川魚が住めなくなる、「温泉をとるか、イワナをとるか」という選択で地域の人が岩魚を選んだとのこと。そのおかげで、小川戸さんの乾杯で始まった夕食の膳を天然岩魚の塩焼きが飾りました。食事中的にぎやかさは、そのまま食後の本宴会へと続きました。

ここで、今回のメンバーを紹介しますと、

3期...小川戸、西海(田中)

4期...菅原(猪間・サブお世話役)、植村、大竹、岡林、田上、徳淵、西海、花田、まとう(日向寺)、

五十嵐

7期...藤田

8期...齋藤(リーダー=チーフお世話役)、佐藤

2日目、この日は池巡りをするイケイケ6人組と、岩菅山へ登るガンガン9人組に別れました。

ここでは岩菅(いわすげ、「いわすご」とも)組の様子を書きます。

マイカーを置いた登山口からしばらくのあいだ、疏水沿いの森林浴といった趣きのゆるやかな道を

歩き、このまま頂上にたどり着けばという淡い期待に反して原生林の中の急登がはじまりました。もともと、池巡り組にしゃべる口全部を持って行かれて、無口な人ばかりが集まった岩菅組ですが、

しばらくの間一列になって黙々と歩き続けました。ノッキリという地点で稜線に出て間もなく森林限界を抜けると、笹原とお花畑の中を歩くようになりました。最後に、木製はしごや岩角を頼りに登りつめると、標高2295mの岩菅山頂上で、登山口から3時間少々 of 行程でした。

宿の弁当はおにぎり3つとほぼ同量のおかずが盛りたくさん。熱いみそ汁が配られて食欲をそそり、

たちまちのうちにお腹に収まりました。山の空気と相まって、食後のお茶も美味でした。

昔から夏山は、「登りはガスっていて、頂上に登りついた時晴れるといい」などと思ったものですが、

この日は、幸か不幸か、登りに照りつけられなかったまま、山頂からの展望も利きませんでした。

頂上で1時間以上もゆっくりしてから、花の道、原生林の中、川沿いの道を下りました。

登山口に戻った時、迎えてくれたのは缶ビール。氷入りの発泡スチロールを車に積み込んだ田上氏の提供で、この日最初の乾杯をしました。

約7時間の行程中、行き会ったのは10名ほどで、無口なメンバーにふさわしく静かな山でした。

この間、池巡り組はその博識と弁舌(饒舌?)をもって、高原を訪れた小中学生のグループや親子連れから尊敬の念を集めていたとのことでした。

宿に戻ってから寝るまでは、夕食時の乾杯の発声が西海(智)さんに変ったくらいで、予備宴会から本宴会まで、前夜とほぼ同パターンの時間を過ごしました。

3日目、この日はマイカーの機動力を大いに発揮した一日でした。

まずは、志賀高原の中心にある蓮池へ行き、ちょうど見ごろとなったハスの花を愛で、遠く近くからカメラに収めました。

次いで、道路標示に17℃と示された志賀草津道路を渋峠まで走り、リフトで横手山頂へ。ここではニッコウキスゲなど黄色系の花が目立ちました。頭上は青空が覗きながらも、遠望の利かない天候でしたが、頂上三角点から目前に見た草津白根山は、赤茶けた火山と緑の本白根の対比が面白く、なかなかの眺めでした。

白根山へ向かう途中、芳が平展望台に寄りましたが、流れる霧を見下ろすにとどまりました。そして、白根火山の駐車場に車を止めて2時間、湯釜、弓池、逢の峰の3つから1つ、2つを選ぶ形でそれぞれ自由行動の散策となり、この場をソフトクリームで仕上げました。

そして、今合宿の打ち上げは、ご存じ草津温泉の、中でも最大級の収容力を誇るホテルで行われました。「歓迎WHC様」という、おそらくクラブ史上初めての看板に迎えられ、早速飛び込んだのが、白濁の露天風呂で、万病に効くという言葉信じられる色とにおい、それに肌ざわり。

その後、座敷での大宴会で本合宿の成果と今後に向けての期待が語られ、3日間の夏合宿は無事終了しました。

企画から実行まで随所に心配りいただいた齋藤リーダーをはじめ、皆さんのおかげで楽しい合宿を過ごすことができました。特に、マイカーで参加された方々(齋藤、小川戸、田上、藤田の各氏)に負うところ大で、現地での足の便はもちろん、飲み物、食べ物をたくさん積んで来られて、要所、要所でそれをふるまってくださいました。

ありがとうございました。次回もよろしくお願ひします。

それにしても都会は暑い！！

*合宿参加者へは、別途何枚かの画像をお送りする予定です。(MLのサイズ制限のため)

11 焼額山頂.jpg



12 お花畑.JPG



13 暗渠を歩く.JPG



21 岩菅登り.JPG



23 岩菅下り.JPG



31 蓮池.JPG



32 横手山から白根さん.JPG



33 打ち上げその 1.JPG



34 打ち上げその2.JPG

